

美しい富士山を、未来の子どもたちに

ふじさんネットワーク

FUJISAN NETWORK

2019.3

vol.
58

巻頭インタビュー①

柿田川の湧水とともに 歩んだ人生

公益財団法人 柿田川みどりのトラスト 漆畑信昭会長

巻頭インタビュー②

富士山の森 森づくりを楽しむ

NPO法人 富士山自然の森づくり 仁藤浪理事長

富士山保全の寄附金授納
外来植物撲滅大作戦Ⅱ

「ふじさんネットワーク」
会員募集中!

美しい富士山を、未来の子どもたちに

ふじさんネットワーク

FUJISAN NETWORK

2019.3

vol.

58

CONTENTS

- 03 [巻頭インタビュー①]
柿田川の湧水とともに
歩んだ人生
公益財団法人 柿田川みどりのトラスト 漆畑信昭会長
- 05 [巻頭インタビュー②]
富士山の森
森づくりを楽しむ
NPO法人 富士山自然の森づくり 仁藤浪理事長
- 07 富士山保全の寄附金授納
外来植物撲滅大作戦Ⅱ
- 08 「ふじさんネットワーク」
会員募集中!

表紙の写真



「静岡市吉原からの富士山」

写真提供：静岡県観光協会

雲海と富士山を撮影できるスポットとしてカメラマンに人気の「吉原」。海から近く湿気が多いこのエリアでは、雨上がりの日にはかなりの確率で雲海が見えます。この人の気配を感じない雄大な景色も、実は東名高速の清水ICから約20分程度とアクセスも良い場所。いくつもの稜線がのびて重なる光景は幻想的です。

富士山憲章(行動規範)

1. 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
1. 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
1. 富士山の自然環境への負担を減らし、人との共生を図ろう。
1. 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
1. 富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

柿田川の湧水とともに 歩んだ人生

国の天然記念物に指定されている柿田川は、日本を代表する清流。その保護活動に生涯をささげてきた公益財団法人「柿田川みどりのトラスト」は、ふじさんネットワーク主催の柿田川自然観察会の開催にも協力して下さっています。その会を代表して、漆畑信昭会長に、これまでの経緯と将来の夢について語っていただきました。



公益財団法人 柿田川みどりのトラスト 漆畑信昭会長

社会の見方が変わった40年

富士山に降り注ぐ雨や雪は、伏流水となつて麓にある溶岩の裂け目から湧水として現れます。駿東郡清水町を流れる柿田川は、その湧水群の中でも最大規模であり、日本を代表する清流として知られています。私

管理を行うトラスト委員会を昭和63年に立ち上げました。委員会発足から3年後には全国から約6800万円の募金が集まり、地主の好意もあつて約2000㎡の土地を取得することができました。

が柿田川自然保護の会を立ち上げたのは昭和50年です。当時は川を保護するというのが社会になく、国や自治体に協力を要請しても、ほぼ門前払いでした。そこでミシマバイカモ（水草）の保護活動、水質調査、自然観察会などと並行して、大型商業施設やクレソン栽培業者の撤退要請などを続けた結果、柿田川の湧水群が『21世紀に残したい日本の自然100選』（1983年朝日新聞社）や『名水100選』（1985年環境省）に選ばれ、社会の見方が大きく変わりました。しかし、その後も不動産会社による周辺環境の破壊が続いたため、保全に必要な土地を買い上げ、あるいは借り上げて保存・

平成3年、トラスト委員会は財団法人「柿田川みどりのトラスト」となり、土地の買い上げ以外に募金は柿田川を地下水汚染や枯渇から守り、その特殊な自然環境を保全する事業に使われることになりました。現在は水源涵養林を育成するための植樹や、外来植物の抜草などの保全活動に加え、一般市民の意識高揚を図るために自然観察会、自然学習会、清掃活動なども実施しています。

ゴールは活動が 不要になること

柿田川に対する社会の意識は大き

く変わりました。今や柿田川の自然保護活動は全国的に知られていますが、海外に比べると環境への意識はまだまだ低いと言わざるを得ません。気持ちは育っていますが、実際に行動するボランティアの数は足りていないのが実情です。また、柿田川には年間約50万人の観光客が訪れています。観光と環境を両立させる仕組みづくりも、行政や企業とともに進めていく必要があります。その意味で、財団の活動はこれからも続きます。最終的なゴールは富士山や柿田川に対する社会の環境意識が大きく変わること。言い換えれば、私たち「柿田川みどりのトラスト」の活動が不要になる社会を実現することを目指しています。



外来植物の除去、抜草作業。活動は官民が協力して行われています。



国の天然記念物・柿田川。富士山の伏流水が湧水群から溢れ出し、川幅40~100m、長さ1.2kmの清流となって狩野川へ注いでいます。

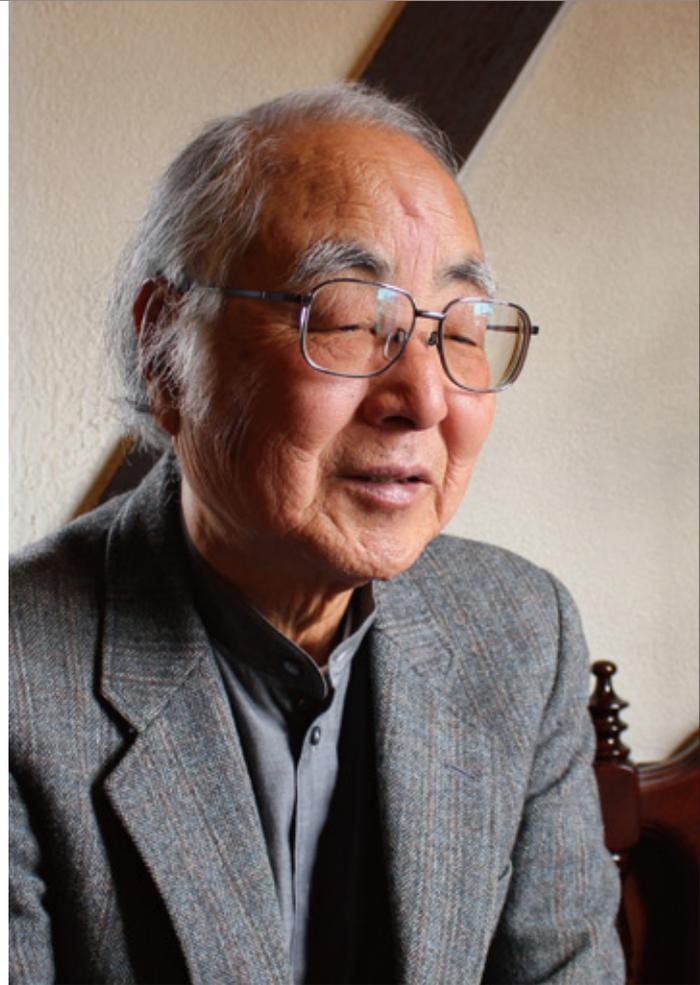
漆畑 信昭氏 うるしばた のおあき

プロフィール

1936 駿東郡清水町（昭和11）年生まれ。クラーク博士に憧れ北海道大学に入学。卒業後は大手水産会社に就職し、全世界を航海。海外赴任中に故郷・柿田川への思いが募り、1975年「柿田川自然保護の会」を設立。柿田川の名を全国に広めたキーパーソン。現在も公益財団法人「柿田川みどりのトラスト」会長として自然保護活動の先頭に立つ。

上_トラストの募金活動によって取得した土地。2018年12月時点で募金総額は約1億5,400万円、取得地は4,986㎡、借上地は905㎡となっています。下_富士山麓、浅木塚で行われている水源涵養林の植林活動。これまでに延べ約6,500人が約23,500本の植樹をしました。





巻頭インタビュー②

富士山の森 森づくりを楽しむ

富士山の自然林再生活動を初めて20年余り。

「富士山自然の森づくり」は、ふじさんネットワークと静岡県共催の根原県有地の草原性植生保全に尽力されています。

その会の理事として、森づくりを行なう

仁藤浪理事長に語っていただきました。

NPO法人 富士山自然の森づくり 仁藤 浪理事長

広葉樹による自然林の再生

雄大な富士山の山麓に住みその素晴らしい姿を日々眺め大切にしたいと願わずにはられない。富士山及び山麓の自然環境の保全を願い59年に仲間と「富士宮自然観察の会」をつくり自然観察・保護の活動に入った。

平成8年9月台風17号により富士山国有林は風倒の被害を受けた。面積は約720haでその大半は人工林のヒノキ・ウラジロモミである。管轄である林野庁は復旧を検討して「風雪に強い富士山の森」にするため広葉樹による再生をきめた。その再生活動をボランティアに求め国有林への出入りを図った。風倒地は静岡森林管理署が倒木等を整理してボランティアに活動の場として提供した。

富士宮自然観察の会は森づくりに取り組むため諸団体に声をかけてから平成9年9月「富士山自然の森づくり」を立ち上げ活動に入った。10

月に現場で現状を知るため現地観察会を実施し多数の参加を得た。しかし自然林の再生活動はほとんど行われていない状況であったので「富士山の森を再生する」を基本に自然から学ぶことからはじめた。それは植えることより自生する樹木を大切にすることである。広葉樹の植栽は富士山由来のものとし分布帯違いや外来・園芸種は植えない・富士山から採取した稚樹、種子を苗畑で育て成長してから山に戻す・自生してきた稚樹、幼樹を保全するため支柱竹を挿す。下刈りは全狩りをしないで木の成長をみて部分狩りとし低木は刈らない・風倒に耐えた人工林・ウラジロモミの未熟木を適宜伐採して光を入れ残った木に力を付けると同時に自生種の芽生えを促し針広混交林化を図る・ニホンジカ等の被害の被害を少なくする方法をとるなどであり活動のなかで順次実践してきた。

自然から多くのことを 教えられる

活動をすることにより多くのことを学んだ。自然の治癒力は予想以上に早い。植栽地と風倒未着手地を比べてみれば歴然と判る。自然林の再生は人工林や里山の森づくりと全く異なりその延長ではない。自生種の芽生えはその環境により早遅があり

種類も違う。生態系の大事さや生物多様性は自然林が重要な場であることなど再認識した。

私たちは今厳しい山の作業に汗をながしているが将来いつか富士山の森が再生されるといふ願いがかなうことを楽しみにしている。活動も風倒地からウラジロモミ林強化に拡大することを望みたい。



平成10年に植栽した場所の現況を観察する仁藤理事長と森づくりの仲間たち。



人工林のウラジロモミの間伐は、自生種の成長促進のためにも重要。

仁藤 浪氏 にとう なみ

プロフィール

富士宮市在住。昭和59年に富士宮自然観察の会を発足し、平成9年に現在理事長を務める「富士山自然の森づくりの会」を設立（平成15年NPO法人認定）。旧天城湯ヶ島町開催の第50回全国植樹祭では、天皇・皇后両陛下の前で「森づくり宣言」を行う。平成29年、自然保護功労知事表彰及び自然公園関係功労者環境大臣表彰を受章。その他、「ふじさんエコレンジャー連絡会」会長、「富士山国有林森づくり連絡協議会」会長などを歴任。林野庁長官賞、国土緑化推進機構会長賞他。



富士山の自然林再生に多くの仲間が参加している。

FUJISAN NETWORK

News

富士山保全の寄附金授納

マックスバリュ東海株式会社(長泉町)とハーゲンダッツジャパン株式会社(東京)から、ふじさんネットワークに計約133万円の寄付を頂きました。贈呈式は、平成30年11月9日(金)に静岡県庁で行われ、マックスバリュ東海は静岡県内109店で募った募金105万円を、ハーゲンダッツジャパンは同じ109店舗で販売した同社製品の販売額1%に相当する約28万円の目録を贈呈しました。マックスバリュ東海は通算

15回目、ハーゲンダッツジャパンは通算5回目の寄付となり、ふじさんネットワークの増澤武弘会長から感謝状が手渡されました。寄附金の累計が100万円を超えたマックスバリュ東海には静岡県知事の感謝状も授与されました。贈呈式後の懇談で増澤会長は「富士山を脅かす外来種対策は急がないと手遅れになる。寄附金は外来植物撲滅をはじめとした活動に、効率よく活用したい」と語りました。



マックスバリュ東海株式会社
の窪田保総務部長
(左)に感謝状を贈呈する
増澤会長。



ハーゲンダッツジャパ
ン株式会社の伊倉正雄
営業本部長(左)に感謝状を贈呈
する増澤会長。



寄附金贈呈式の出席者全員で記念撮影。

FUJISAN NETWORK

Report

外来植物撲滅大作戦Ⅱ



道路脇の草むらで注意深くオオキンケイギクを探す参加者。

活動前に外来植物の生態や、どのように除去すれば拡散されないかなどを学ぶ講義を受講した。



除去したオオキンケイギクはごみ袋に密閉して処分した。ロゼット状で見つけにくかったが、参加者は熱心除去活動を行なった。

富士山麓では毎年多くの車や人が往來し、その周辺道路沿いではいくつもの外来植物が確認されています。外来種は繁殖力が強い種が多く、放置すると在来種の生育地を奪ってしまいます。そこで富士山の自然環境を守るため「外来植物撲滅大作戦Ⅱ」を実施。昨年11月24日に公募ボランティア30名とNPO法人富士山クラブ職員、静岡県環境局自然保護課職員が富士山環境交流プラザに集合。公募ボランティアに外来植物

について学んでもらった後、実際に除去作業を体験してもらいました。今回の活動では、富士市桑崎と大淵の国道469号線において、オオキンケイギクを根っこから引き抜きごみ袋に。当日のオオキンケイギク除去成果は11.5kgになりました。参加者からは「宝探しみたいで楽しい」という意見や、「もっとバラけて作業した方が効率的」という意見など、富士山周辺の環境保全に対する意欲的な意見が多数寄せられました。

Welcome



Join Us

「ふじさんネットワーク」 会員募集中!

Check!

「ふじさんネットワーク」は、その活動を通じて、富士山を国民の財産として、世界に誇る日本のシンボルとして、後世に引き継いでいくことを目的とします。富士山の環境保全活動を行うグループ、自然保護団体、NPO、企業、マスコミ、行政等による会員制のネットワーク組織ですが、富士山を愛する人なら個人でも登録ができます。



「ふじさんネットワーク」の取り組みなどはホームページから見るすることができます。

<http://www.fujisan-net.gr.jp/>

入会費・年会費なし 無料

特典

- 「ふじのくにネットワーク」の冊子が届きます
- 登録するとメールマガジンが届きます
- シンボルマークが使えます

300円からの寄付で
ピンバッジがもらえます!

「富士山総合環境保全指針」と行動規範としての「富士山憲章」の周知・定着を図り、富士山の環境保全への関心を高めもらうため、ふじさんネットワークの環境保全活動への寄付を募るとともに、富士山ピンバッジを配布します。

富士山の雲シリーズ THE CLOUD SERIES

■1セット4個組(大きさ:各直径32ミリメートル) ■1口:1,000円以上

直接受取希望: ふじさんネットワーク事務局まで、連絡をした上でお願いします。募金と同時にピンバッジをお渡します。

送付希望: 郵便、電話、FAX又はメールで[1]-[4]の事項をお知らせください。
[1]-名前 [2]-住所 [3]-電話番号 [4]-希望するピンバッジの種類・個数
振込用紙を送付します。振込の確認ができれば、ピンバッジを送付します。
(振込手数料・送料は不要)



こちらも
よろしく!

SAVE Mt.FUJI

■1個(大きさ:各直径26ミリメートル) ■1口:300円以上

花シリーズ

■1セット5個組(大きさ:各直径26ミリメートル) ■1口:1,000円以上



ふじさんネットワーク 2019年3月 vol.58

編集・発行 **ふじさんネットワーク事務局**

静岡県くらし・環境部環境局自然保護課内 〒420-8601 静岡市追手町9番6号

電話:054-221-2963 ファックス:054-221-3278

E-mail:3776fujii@pref.shizuoka.jp URL:<http://www.fujisan-net.gr.jp/>

ふじさんネットワーク

- 設立 平成11年10月23日
- 会長 増澤 武弘
(特定非営利活動法人静岡自然環境研究会理事長・静岡大学客員教授)
- 会員数 537団体・個人(H31.1.31現在)

※本書の作成には、マックスパリュウ東海株式会社、及びハーゲンダッツジャパン株式会社からの寄附金が使われています。